

資料提供

エイベックス・エンタテインメント株式会社/株式会社電通ライブとの同時提供



令和元年9月26日

担当課	観光課
担当者	南方・松林・村越
電話	(073) 435-1234
内線	3073

要塞施設をそのまま“音”の美術館にした『友ヶ島第3砲台美術館』が、神秘の無人島・友ヶ島に10月3日（木）よりオープン！

令和元年10月3日（木）より世界初の“音”の美術館『友ヶ島第3砲台美術館』が開館します。美術館では常設展示をお楽しみいただける他、開館を記念して、10月3日（木）～10月31日（木）の1ヵ月間、第3砲台跡全体を使った企画展『ヤミツク～くらやみのいきものに関する研究結果展～』を開催します。この機会に、みなさんもぜひ友ヶ島へお越しいただき、音の作品をお楽しみください。

【開催期間】 常設展：令和元年10月3日（木）スタート

企画展：令和元年10月3日（木）～10月31日（木） ※期間限定

【開催場所】 友ヶ島／第3砲台跡 和歌山市加太字苦ヶ沖島 2673 番地の1

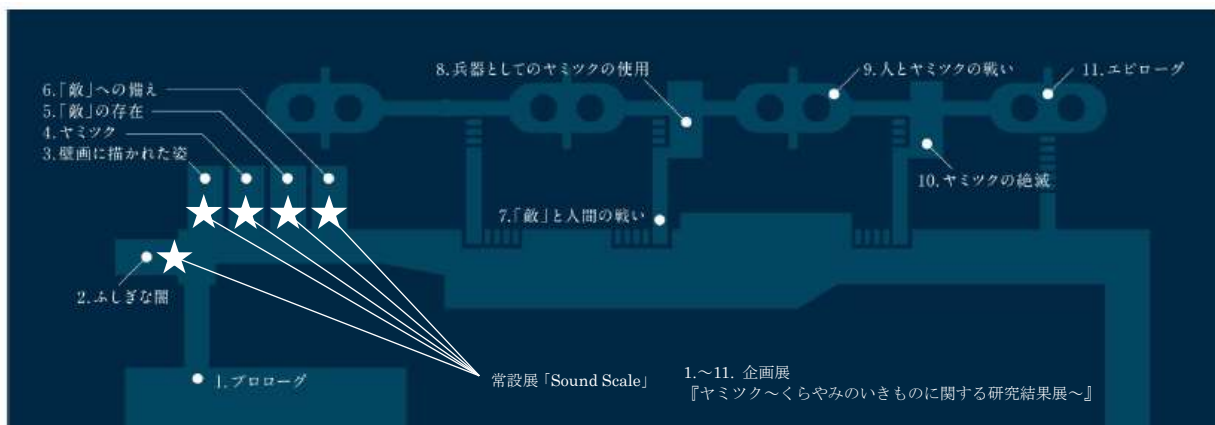
◎友ヶ島第3砲台美術館



友ヶ島にある歴史的な要塞施設をそのまま美術館に変える試みで、本市がエイベックス・エンタテインメント株式会社と共同開発した音声ARアプリ『友ヶ島』を使って楽しむ、世界でも類を見ない“音の展示”にフォーカスした美術館です。人間の想像力を刺激する聴覚に着目し、暗闇の中に流れてくる音に耳を澄ますというこれまでにない新しい鑑賞スタイルで“音”の作品をお楽しみ下さい。

≫会場内地図

※安全のため各自で懐中電灯をご持参下さい。



≫常設展『サウンドスケール (Sound Scale) 』

第3砲台跡にある物質的には同じ大きさを持つ5つの部屋では、和歌山児童合唱団による広い、狭い、重さ、踊るなど様々なアレンジがされた幻想的な童謡が常にループ再生されており、体験者は、部屋を移動し、聴覚を通じた仮想の方に没入していくことで、視覚を通じた現実よりも空間認識の変化を楽しむことができます。



≫企画展『ヤミツク〜くらやみのいきものに関する研究成果展〜』

小説家・^{みさきあき}三崎亜記さんが書き下ろした“友ヶ島に存在していた謎の生物・ヤミツクの物語”を題材に、ある博士がこのヤミツクを調査してきた内容を追体験するという全く新しい発想の展覧会で、音声ARアプリから聞こえてくる博士による一人語りに耳を澄ましながら、各展示室に置かれた調査結果を示すアート作品を鑑賞いただけます。



≫HP情報

□常設展特設サイト (エイベックス・エンタテインメント株式会社)

<https://sarf.jp/>

□企画展特設サイト (株式会社電通ライブ)

<https://ymtk.t3fm.jp/>

□和歌山市特設ページ (「観光・イベント」ページ内)

<http://www.city.wakayama.wakayama.jp/kankou/kankouspot/1001203/1025368.html>

◎音声AR島内観光ガイド「友ヶ島要塞探索の旅」



友ヶ島の魅力をより多くの方に知っていただくために、エイベックス・エンタテインメント株式会社と共同で観光ガイドアプリ『友ヶ島』を開発しました。現在注目を集める音声AR技術を活用し、アプリ利用者が島内の貴重な歴史遺産に近づくと、アプリからそのスポットでのみ聞くことができる特別な解説が自動的に流れると同時に、画面には当時の様子を紹介する貴重な史料等が映し出され、より詳しく友ヶ島の歴史や魅力に触れることができます。

◎音声ARアプリ『友ヶ島』



TOP画面では、次に進みたいカードを選択できます。



アプリのTOP画面に表示される様々なカード(音声コンテンツ)から体験したいカードを選んで、カードごとに設定された場所に行くとも体験をスタートさせることができます。アプリに表示される地図をたよりに各スポットを訪ねてお楽しみ下さい。

【用意されているカード】

- ・はじめに
- ・友ヶ島第3砲台美術館 常設展
- ・友ヶ島第3砲台美術館 企画展
- ・友ヶ島要塞探索の旅
- ・友ヶ島への行き方

≫ダウンロード方法 (ダウンロードは10月3日から可能)



「友ヶ島」アプリアイコン



App Store



Google Play

[App Store] <https://itunes.apple.com/jp/app/id1480811792>

[Google Play] <https://play.google.com/store/apps/details?id=jp.sarf.tomogashima>

◎プレス向け内覧会

日 時：令和元年10月2日(水) 8:30~12:00

会 場：友ヶ島(沖ノ島) 和歌山市加太字苦ヶ沖島 2673 番地の1

集合場所：友ヶ島汽船乗船場(加太港) 8:30 集合 時間厳守

注意事項：・スケジュール等の詳細は別紙「ご取材の案内」をご覧ください。

- ・ご出欠に関してましては、別紙「ご取材の案内」の取材申込書に必要事項をご記入の上、9月30日(月) 15:00 までに和歌山市観光課 (FAX:073-435-1263) までお送り下さい。

アプリの楽しみ方

※イヤホンがあると、周りの音に影響されず、コンテンツをお楽しみいただけます。



①アプリ「友ヶ島」を起動。

②TOP画面にて体験したいコンテンツのカードを選択。

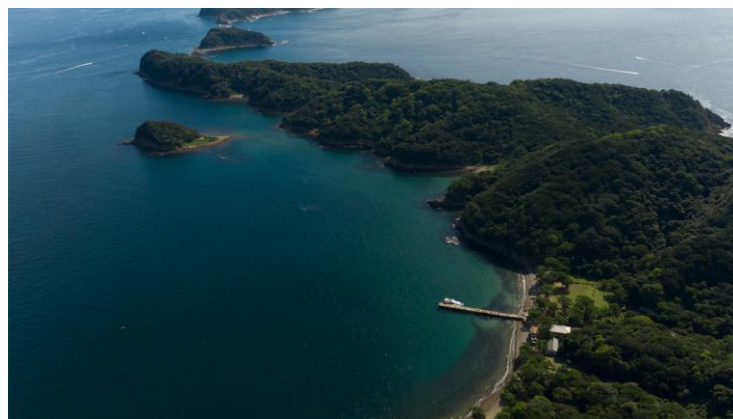
③選択したカードを開いて記載されている体験方法に沿って、それぞれのコンテンツお楽しみください。

要塞施設をそのまま“音”の美術館にした『友ヶ島第3砲台美術館』が、
神秘の無人島・友ヶ島に10月3日(木)よりオープン。

友ヶ島を舞台にした架空の物語を追体験する企画展
『ヤミツク ～くらやみのいきものに関する研究結果展～』を開催
2019年10月3日(木)～10月31日(木) | <https://ymtk.t3fm.jp>

2019年10月3日(木)より開館する『友ヶ島第3砲台美術館』は、開館を記念して、10月3日(木)～10月31日(木)の1ヶ月間、展示室となる第3砲台跡全体を使った大規模な企画展『ヤミツク ～くらやみのいきものに関する研究結果展～』を開催いたします。

『友ヶ島第3砲台美術館』は、「要塞島が美術館に。」をコンセプトに、近年神秘の無人島として注目を集めている和歌山市北西加太沖に浮かぶ無人島群・友ヶ島にある歴史的な要塞施設をそのまま美術館に変える試みで、和歌山市がエイベックス・エンタテインメント株式会社と共同開発した音声ARアプリ『友ヶ島』を使って楽しむ、“世界でも類を見ない”音の展示”にフォーカスした美術館です。



そして、その開館を記念した企画展として、カンヌ広告祭やNYADCなど数多くの世界的広告賞の受賞経験を持ち、近年はイベントや店舗、操縦可能なロボット「KURATAS」のプロデュースまでその表現領域を常に拡張し続ける広告業界の鬼才：カイツ木谷友亮をディレクターに迎え、友ヶ島を舞台にした架空の物語を追体験する『ヤミツク ～くらやみのいきものに関する研究結果展～』を開催いたします。

『ヤミツク ～くらやみのいきものに関する研究結果展～』は、小説家・三崎亜記さんが書き下ろした“友ヶ島に存在していた謎の生物・ヤミツクの物語”を題材に、ある博士がこのヤミツクを調査／研究してきた内容を追体験するという全く新しい発想の展覧会で、没入性の高い音声ARアプリから聞こえてくる博士による一人語りにより耳を澄ましなが、各展示室に置かれた調査／研究結果を示す展示物(アート作品)を鑑賞いただけます。



更に、常設展示として、国際コンクールなどで上位入賞するなど世界的に高い評価を得ている和歌山児童合唱団の幻想的な童謡が、島の時空を彩る音声ARアート「サウンドスケール(Sound Scale)」も展示。かつて国を守るため、幾つもの砲台が設置され、要塞島となった友ヶ島。その歴史遺産をそのまま生かし、暗闇の中で、微かな光に目を凝らす・音に耳を澄ますことで楽しむ美術館。暗い戦争の時代から時を止めた空間の中で現代に産声を上げる新しいアート作品の数々をお楽しみいただけます。

1. 友ヶ島の更なる観光活性化に向けて、音声ARアプリ『友ヶ島』を開発

和歌山市北西加太沖に浮かぶ無人島群「友ヶ島」は、「地ノ島」、「虎島」、「神島」、「沖ノ島」の総称名です。「沖ノ島」は第二次世界大戦時に要塞施設となった島で、今でも当時建設された砲台がかつての姿のまま残っています。一方、緑深い照葉樹林が繁り、様々な植物・磯の生きものなどが生息する自然の宝庫でもあります。昨今、まるで時が止まったような神秘的な「友ヶ島」の雰囲気大きな話題となっています。そして、そんな島の魅力をより多くの方に知っていただく為に、エイベックス・エンタテインメント株式会社と共同で観光ガイドアプリ『友ヶ島』を開発。アプリに採用されているのは、現在注目を集める「音声AR」技術です。参加者の位置情報をBeacon*1やGPS等により把握しプログラムされた音声情報を自動再生する仕組みで、利用者が友ヶ島内の貴重な歴史資産に近づくと、アプリからその解説が自動的に流れるとともに画面には当時の様子を紹介する貴重な史料が映し出されます。

*1 低消費電力の距離無線技術を活用した信号発信機で、信号を数秒に一回半径数メートル範囲に発信。

- ◎配信日: 2019年10月3日(木)
- ◎対応言語: 日本語、英語(配信開始時点)
- ◎対応OS: <Android版>・Android 7.0 以上
<iOS版>・iPhone 6 以上(iPadでは使用できません)／iOS 11.0 以上
- ◎価格: 無料
- ◎DLはこちらから: [App Store] <https://itunes.apple.com/jp/app/id1480811792>
[Google Play] <https://play.google.com/store/apps/details?id=jp.sarf.tomogashima>



和歌山市立博物館所蔵



国土地理院長の承認を得て、1万分1地形図を複製。承認番号 令元情複、第373号



和歌山市立博物館所蔵

2. 友ヶ島に眠る要塞施設をそのまま美術館に変えた、『友ヶ島第3砲台美術館』

28cm榴弾砲を8門備えた第3砲台は、友ヶ島でもっとも標高の高いタカノス山(119.7m)の山頂直下に築かれた友ヶ島要塞の主力砲台で、明治23年に完成。レンガ造りの地下施設を有するフランス式で、弾薬倉庫である棲息掩蔽部が現存するなど保存状態も良い貴重な歴史遺産です。そして、今回、この一部立入禁止区域を除き自由に探索できる歴史遺産を更にお楽しみいただく為に、音声ARアプリ『友ヶ島』を活用して音を展示することで、施設に手を加えることなくそのまま美術館として二次利用する試み『友ヶ島第3砲台美術館』をスタートします。

- ◎開館： 2019年10月3日(木)よりスタート
- ◎場所： 和歌山市加太2673番地 友ヶ島(沖ノ島)ノ第3砲台跡
- ◎開館日時： 水曜日休館 ※ただし、12月1日～2月29日は土・日・祝のみ開館ノ12月29日～1月3日を除く
- ◎入館料： 無料(企画展は別途有料となる可能性があります)
- ◎鑑賞方法： 音声ARアプリ『友ヶ島』をインストールし、友ヶ島ノ第3砲台跡にお越し下さい。
- ◎URL： <https://ymtk.t3fm.jp>

【コンセプト】

要塞島が美術館に。
友ヶ島第3砲台美術館

かつて、国を守るため、
いくつもの砲台が設置され、
要塞へと変貌を遂げた島がありました。
やがて、訪れた太平洋戦争。
しかし、その島が力を発揮する時は遂に訪れず、
使われることのなかった砲台をはじめとする施設は、
その姿、形を残したまま眠りにつきました。

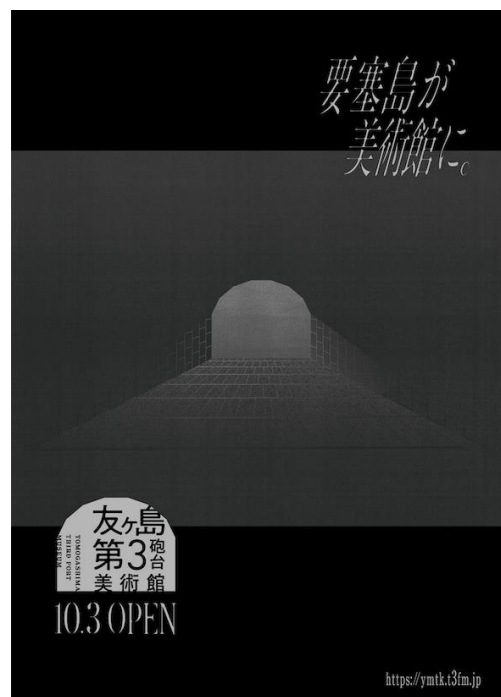
のどかな紀淡海峡に浮かぶ和歌山市友ヶ島。
生い茂る草木。苔の生したレンガ。
当時の姿をそのままに留めた要塞施設は、
この国で戦争の時代があったことを、
今に教えてくれます。

そんな施設の一つ、
第3砲台が美術館として生まれ変わります。
歴史遺産をそのまま生かし、
この施設が生み出す静寂の空間に身を置く。
そして、暗闇の中で、光に目を凝らす。音に耳を澄ます。
それがこの美術館の鑑賞方法。
暗い戦争の時代から時を止めた空間の中で、
現代に産声を上げた作品と出会う。
ここは影と光、戦争と平和、過去と現代が交錯し、
未来が生まれる場なのです。

【ロゴマーク】



【告知ビジュアル】



【館内の様子】



3. 企画展『ヤミツク ～くらやみのいきものに関する研究結果展～』開催概要

友ヶ島第3砲台美術館の開館を記念した企画展『ヤミツク ～くらやみのいきものに関する研究結果展～』は、舞台化や映像化もされた『となり町戦争』の作者である小説家・三崎亜記さん書下ろしの物語を、音声ARアプリを活用することで、音と空間を融合させて”展覧会”という形で再構築する試みです。我々の住む世界とは異なるパラレルワールドの「友ヶ島」を舞台に、今は絶滅した「ヤミツク」という謎の生物の調査結果を辿りながら、この島で起こった不思議な出来事を追体験します。全体ディレクションは広告業界の鬼才:カイツ木谷友亮が担当。「ヤミツク」が存在した友ヶ島の神秘的な世界を創り出します。

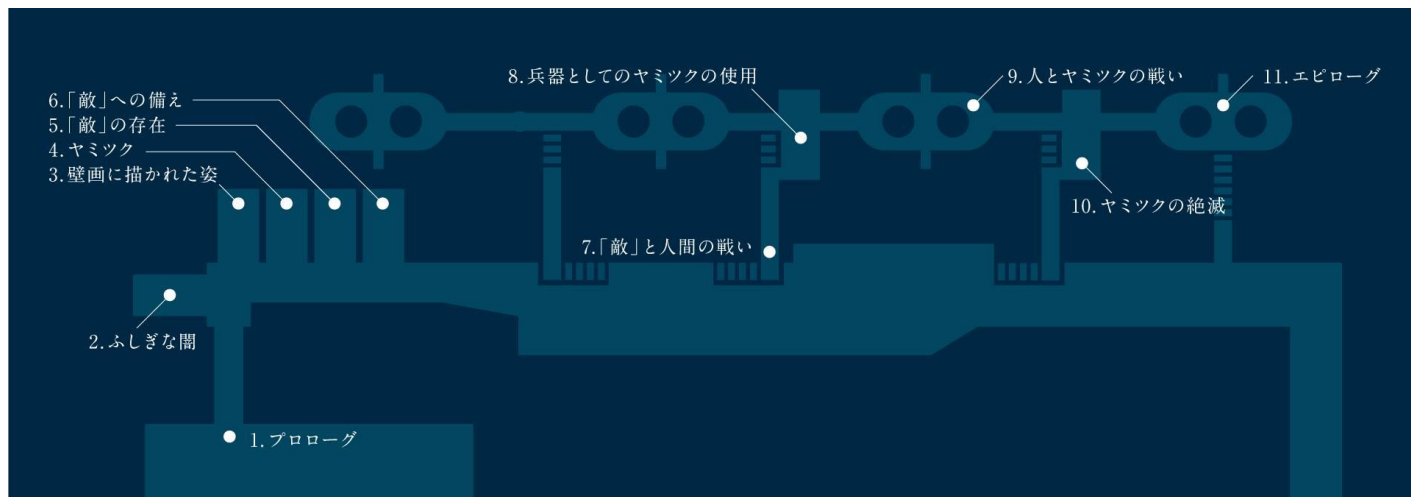
- ◎期間: 2019年10月3日(木)～2019年10月31日(木)
- ◎場所: 和歌山市加太2673番地 友ヶ島(沖ノ島)／第3砲台跡
- ◎開館日時: 水曜日休館
- ◎料金: 無料
- ◎鑑賞方法: 音声ARアプリ『友ヶ島』をインストールし、友ヶ島／第3砲台跡にお越し下さい。
- ◎URL: <https://ymtk.t3fm.jp/>

『ヤミツク ～くらやみのいきものに関する研究結果展～』あらすじ

絶滅した生物である「ヤミツク」の調査は困難を極めたが、博士の粘り強い研究により、ついにヤミツクの調査結果を一般公開するに至った。



【会場ゾーニング】



【参加アーティスト】

木谷友亮プロフィール:

1976年千葉県生まれ。グラフィック広告の制作会社を経て2006年に株式会社カイツツを設立。グラフィックデザインとデジタルクリエイティブをベースに幅広い分野で活動。三井不動産「ふつうじゃない2020展」、とらや東京出店150周年記念「千里起風展」、ONE PIECE 大覚寺「魔獣と姫と誓いの花」展などの展覧会ディレクションを担当。



三崎亜記プロフィール:

作家。1970年福岡県生まれ。2004年『となり町戦争』で小説すばる新人賞を受賞し、デビュー。著書に『バスジャック』『失われた町』『鼓笛隊の襲来』『コロヨシ!!』シリーズ、『ターミナルタウン』『30センチの冒険』『作りかけの明日』等。



4. 常設展示『サウンドスケール(Sound Scale)』

和歌山児童合唱団による幻想的な童謡が、島の時空を彩る音声ARアート。広い・狭い・重さ・踊るなど、普段は音に使わない形容や動作を付与することで、空間の認識を変化させる試みです。第3砲台にある物質的には同じ大きさを持つ5つの部屋が、サウンドスケール(ここでは音階という意味ではなく音による空間演出)によって、物理法則を超えて体験者それぞれの心的作用で拡張されていく。立体的に構成された澄んだ歌声が、心に動的に配置されていくことで、視覚を通じた現実よりも聴覚を通じた仮想の方に没入していく音のインスタレーションとなります。

〈本件に関する報道関係者様からのお問合せ先〉

友ヶ島第3砲台美術館PR事務局(株式会社ハイライト内)担当:丸山

TEL: 03-4500-2346 FAX: 03-5539-4430 MAIL: tomogashima@high-light.co.jp

【ご取材の案内】

神秘の無人島「友ヶ島」を音声AR化。世界初の”音”の美術館

『友ヶ島第3砲台美術館』が10月3日(木)よりオープン。

プレス向け内覧会のご案内

架空の物語を追体験する大規模企画展『ヤミツク〜くらやみのいきものに関する研究結果展〜』も期間限定で開催

日時：2019年10月2日(水) 08:30~12:00

会場：友ヶ島（沖ノ島）和歌山市加太字苦ヶ沖島2673番地の1 | 集合場所：友ヶ島汽船乗船場（加太港）

和歌山市は、この度エイベックス・エンタテインメント株式会社と共同開発した音声ARによる観光ナビゲーションアプリ「友ヶ島」を、10月3日（木）から運用を開始します。それに伴い、友ヶ島第3砲台跡に世界で初めて無人島の遺跡に音を展示する美術館『友ヶ島第3砲台美術館』を開館します。つきましては、報道関係者の方向けに、アプリの概要および、音の美術館をご体感いただく内覧会を、10月2日（水）に、友ヶ島にて実施いたします。

『友ヶ島第3砲台美術館』は、「要塞島が美術館に。」をコンセプトに、近年神秘の無人島として注目を集めている和歌山市北西の加太沖に浮かぶ無人島群・友ヶ島にある歴史的な要塞施設をそのまま美術館に変える試みで、和歌山市がエイベックス・エンタテインメント株式会社と共同開発した音声ARアプリ『友ヶ島』を使って楽しむ、世界でも類を見ない”音の展示”にフォーカスした美術館です。

本美術館の開館を記念した企画展として、10月3日(木)~10月31日(木)の1ヶ月間、カンヌ広告祭やNYADCなど数多くの世界的広告賞の受賞経験を持ち、近年はイベントや店舗、操縦可能なロボット「KURATAS」のプロデュース等、その表現領域を常に拡張し続ける**広告業界の鬼才・木谷友亮(カイツツ)**をディレクターに迎え、友ヶ島を舞台にした架空の物語を追体験する『ヤミツク〜くらやみのいきものに関する研究結果展〜』を開催いたします。

『ヤミツク〜くらやみのいきものに関する研究結果展〜』は、**小説家・三崎亜記さん**が書き下ろした“友ヶ島に生存していた謎の生物・ヤミツクの物語”を題材に、ある博士がこのヤミツクを調査してきた内容を追体験するという全く新しい発想の展覧会で、没入性の高い音声ARアプリから聞こえてくる博士による一人語りにより耳を澄ましなが、各展示室に置かれた調査結果を示す展示物(アート作品)を鑑賞いただきます。

更に、**常設展**として、国際コンクールなどで上位入賞するなど世界的に高い評価を得ている和歌山児童合唱団の幻想的な童謡が、島の時空を彩る**音声ARアート「サウンドスケール(Sound Scale)」**も展示。かつて国を守るため、幾つもの砲台が設置され、要塞島となった友ヶ島。その歴史遺産をそのまま生かし、暗闇の中で、微かな光に目を凝らす・音に耳を澄ますことで楽しむ美術館。暗い戦争の時代から時を止めた空間の中で現代に産声を上げる新しいアート作品の数々をお楽しみいただけます。

プレス向け内覧会概要

- 日程：2019年10月2日(水)
- 集合場所：友ヶ島汽船乗船場（加太港）※加太港へのアクセスは別紙参照
- スケジュール：

08:30	各自で加太港に集合（時間厳守でお願いします）
09:00	友ヶ島汽船に乗船し、友ヶ島へ移動
09:20	友ヶ島到着、担当者からの解説
09:30	内覧スタート
11:30	内覧終了
11:40	友ヶ島汽船に乗船し、加太港へ移動
12:00	加太港到着、解散
- 注意事項：
 - ・加太港までのご自身でご移動いただきますようお願いいたします。
 - ・ご出欠に関しまして取材申込書に必要事項をご記入の上、9月30日(月)15:00までに和歌山市観光課（FAX:073-435-1263）までお送り下さい。

和歌山市北西加太沖に浮かぶ無人島群「友ヶ島」は、「地ノ島」、「虎島」、「神島」、「沖ノ島」の総称名です。「沖ノ島」は第二次世界大戦時に要塞施設となった島で、今でも当時建設された砲台がかつての姿のまま残っています。一方、緑深い照葉樹林が繁り様々な植物・磯の生きものなどが生息する自然の宝庫でもあります。昨今、まるで時間が止まったような神秘的な「友ヶ島」の雰囲気が大きな話題となっています。そして、そんな島の魅力をより多くの方に知っていただく為に、エイベックス・エンタテインメント株式会社と共同で観光ガイドアプリ『友ヶ島』を開発。アプリに採用されているのは、現在注目を集める「音声AR」技術です。参加者の位置情報をBeacon*1やGPS等により把握しプログラムされた音声情報を自動再生する仕組みで、利用者が友ヶ島内の貴重な歴史遺産に近づくと、アプリからその解説が自動的に流れるとともに画面には当時の様子を紹介する貴重な史料が映し出されます。

*1 低消費電力の距離無線技術を活用した信号発信機で、信号を数秒に一回半径数メートル範囲に発信。

- ◎配信日: 2019年10月3日(木)
- ◎対応言語: 日本語、英語(配信開始時点)
- ◎対応OS: <Android版>・Android 7.0 以上
<iOS版>・iPhone 6 以上(iPadでは使用できません)/iOS 11.0 以上
- ◎価格: 無料
- ◎DL: [App Store] <https://itunes.apple.com/jp/app/id1480811792>
[Google Play] <https://play.google.com/store/apps/details?id=jp.sarf.tomogashima>



28cm榴弾砲を8門備えた第3砲台は、友ヶ島でもっとも標高の高いタカノス山(119.7m)の山頂直下に築かれた友ヶ島要塞の主力砲台で、明治23年に完成。レンガ造りの地下施設を有するフランス式で、弾薬倉庫である棲息掩蔽部が現存するなど保存状態も良い貴重な歴史遺産です。そして、今回、この一部立入禁止区域を除き自由に探索できる歴史遺産を更にお楽しみいただく為に、音声ARアプリ『友ヶ島』を活用して音を展示することで、施設に手を加えることなくそのまま美術館として二次利用する試み『友ヶ島第3砲台美術館』をスタートします。

- ◎期間： 2019年10月3日(木)～2019年10月31日(木)
- ◎場所： 和歌山市加太2673番地 友ヶ島(沖ノ島)／第3砲台跡
- ◎開館日時： 水曜日休館 ※ただし、12月1日～2月29日は土・日・祝のみ開館／12月29日～1月3日を除く
- ◎料金： 無料
- ◎鑑賞方法： 音声ARアプリ『友ヶ島』をインストールし、友ヶ島／第3砲台跡にお越し下さい。

【コンセプト】：要塞島が美術館に。友ヶ島第3砲台美術館

かつて、国を守るため、いくつもの砲台が設置され、要塞へと変貌を遂げた島がありました。やがて、訪れた太平洋戦争。しかし、その島が力を発揮する時は遂に訪れず、使われることのなかった砲台をはじめとする施設は、その姿、形を残したまま眠りにつきました。

のどかな紀淡海峡に浮かぶ和歌山市友ヶ島。生い茂る草木。苔の生したレンガ。当時の姿をそのままに留めた要塞施設は、この国で戦争の時代があったことを、今に教えてくれます。

そんな施設の一つ、第3砲台が美術館として生まれ変わります。歴史遺産をそのまま生かし、この施設が生み出す静寂の空間に身を置く。そして、暗闇の中で光に目を凝らす。音に耳を澄ます。それがこの美術館の鑑賞方法。暗い戦争の時代から時を止めた空間の中で、現代に産声を上げた作品と出会う。ここは影と光、戦争と平和、過去と現代が交錯し、未来が生まれる場なのです。

【館内の様子】



友ヶ島第3砲台美術館の開館を記念した企画展『ヤミツク～くらやみのいきものに関する研究結果展～』は、舞台化や映像化もされた『となり町戦争』の作者である小説家・三崎亜記さん書下ろしの物語を、音声ARアプリを活用することで、音と空間を融合させて”展覧会”という形で再構築する試みです。我々の住む世界とは異なるパラレルワールドの「友ヶ島」を舞台に、今は絶滅した「ヤミツク」という謎の生物の調査結果を辿りながら、この島で起こった不思議な出来事を追体験します。全体ディレクションは広告業界の鬼才・木谷友亮(カイツ)が担当。「ヤミツク」が存在した友ヶ島の神秘的な世界を創り出します。

- ◎期間： 2019年10月3日(木)～2019年10月31日(木)
- ◎場所： 和歌山市加太2673番地 友ヶ島(沖ノ島)／第3砲台跡
- ◎開館日時： 水曜日休館
- ◎料金： 無料
- ◎鑑賞方法： 音声ARアプリ『友ヶ島』をインストールし、友ヶ島／第3砲台跡にお越し下さい。
- ◎URL： <https://ymtk.t3fm.jp/>

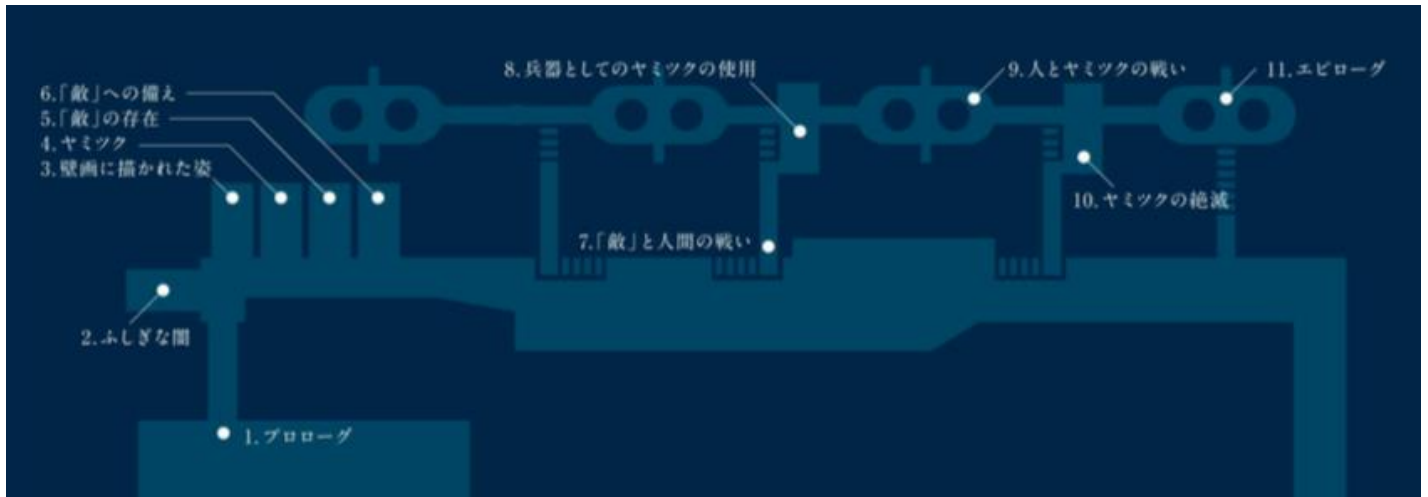


『ヤミツク ～くらやみのいきものに関する研究結果展～』 あらすじ

絶滅した生物である「ヤミツク」の調査は困難を極めたが、博士の粘り強い研究により、ついにヤミツクの調査結果を一般公開するに至った。



【会場ゾーニング】



【木谷友亮プロフィール】

1976年千葉県生まれ。グラフィック広告の制作会社を経て2006年に株式会社カイツツを設立。グラフィックデザインとデジタルクリエイティブをベースに幅広い分野で活動。三井不動産「ふつうじゃない2020展」、とらや東京出店150周年記念「千里起風展」、ONE PIECE 大覚寺「魔獣と姫と誓いの花」展などの展覧会ディレクションを担当。

【三崎亜記プロフィール】

三崎亜記プロフィール: 作家。1970年福岡県生まれ。2004年『となり町戦争』で小説すばる新人賞を受賞し、デビュー。著書に『バスジャック』『失われた町』『鼓笛隊の襲来』『コロヨシ!!』シリーズ、『ターミナルタウン』『30センチの冒険』『作りかけの明日』等。

常設展示『サウンド スケール(Sound Scale)』概要

和歌山児童合唱団による幻想的な童謡が、島の時空を彩る音声ARアート。広い・狭い・重さ・踊るなど、普段は音に使わない形容や動作を付与することで、空間の認識を変化させる試みです。第3砲台跡にある物質的には同じ大きさを持つ5つの部屋が、サウンドスケール(ここでは音階という意味ではなく音による空間演出)によって、物理法則を超えて体験者それぞれの心的作用で拡張されていく。立体的に構成された澄んだ歌声が、心に動的に配置されていくことで、視覚を通じた現実よりも聴覚を通じた仮想の方に没入していく音のインスタレーションとなります。

【5つのサウンドスケール作品】

第三砲台跡にある物質的には同じ大きさを持つ5つの部屋ごとに、異なるサウンドスケール(ここでは音階という意味ではなく音による空間演出)をご鑑賞いただけます。

1の部屋：リアルな音：REAL (本来の弾薬庫跡で聴く音響を再現)

2の部屋：広い音：BROAD

3の部屋：狭い音：NARROW

4の部屋：重さの変わる音：WEIGHTED

5の部屋：踊る音：DANCE

歌い手【和歌山児童合唱団プロフィール】

1958年に発足。小学1年生～高校2年生の団員の約100名。過去33回の海外演奏旅行をはじめ、定期演奏会や国内招待公演を中心に年間約20回の演奏活動を行う。国際的なコンクールにおいて全て「上位入賞」するなど世界的に高い評価を得るほか、全日本合唱コンクール一般の部で児童合唱として初の関西代表、宝塚国際室内合唱コンクールではこちらも児童合唱初の総合二位受賞など日本を代表する合唱団として活躍。2019年はエストニアで開催されている世界遺産の音楽祭に日本から初めて招待される。

音源制作【松本昭彦（Akihiko Matsumoto）】

東京藝術大学大学院美術研究科先端芸術表現専攻修了。アルゴリズムミクな作曲を専門とし、プログラミング技術を駆使し徹底的に人間性を排除して作られたピアノ曲集である1stCDアルバム『Preludes for Piano Book1』を2016年にリリース。アーティスト活動以外ではプログラマーとして様々な大手企業の研究所での開発仕事に携わる。アートとテクノロジーについてのワークショッププロジェクトであるRESONANCEやAbleton and Max Community Japan、ライブイベントSOURCE CORDをオーガナイズし、雑誌PROSOUNDにて音とテクノロジーと表現に関するインタビュー連載をするなど、クリエイターのための多岐にわたる活動も積極的に行なっている。

<http://akihikomatsumoto.com/>

音源監修【川添 善行（Yoshiyuki Kawazoe）】

建築家、東京大学准教授。1979年神奈川県生まれ。東京大学生産技術研究所准教授。空間構想一級建築士事務所。東京大学建築学科卒業、オランダ留学後、博士号取得。「変なホテル」、「東京大学総合図書館別館」などの建築作品や、「空間にこめられた意思をたどる」（幻冬舎）、「このまちに生きる」（彰国社）などの著作がある。日本建築学会作品選集新人賞、グッドデザイン未来づくりデザイン賞、ロヘリオ・サルモナ・南米建築賞名誉賞、東京建築賞最優秀賞などを受賞し、日蘭建築文化協会会長などを務める。



FAX 073-435-1263 (和歌山市観光課 松林・村越 宛て)

<取材申込書>

『友ヶ島第3砲台美術館』プレス向け内覧会

取材をご希望される場合には、お手数ですが、下記に必要事項をご記入のうえ、9月30日(月) 15:00までにFAXにて、和歌山市観光課までお申し込みください。

※荒天等が予想される場合、開催可否を10月1日(水) 17:00に判断いたします。
中止の場合のみ、下記にご記入いただいた電話番号にご連絡いたします。

貴社名	
媒体名/部署名	
ご芳名	他()名
電話番号 (当日連絡先)	
メールアドレス	
備考欄 インタビューなどの ご要望などがあれば ご記入ください	

(注意事項)

- ・加太港まではご自身でご移動いただきますようお願いいたします。
- ・締切日以降の取材の申し込みにつきましては、準備の都合上、ご希望に添えませんので、ご

いただきますようお願いいたします。

- ・島内には、危険な場所などございますので、関係者の指示に従って下さい。

<本件に関する報道関係者様からのお問い合わせ先>

和歌山市 産業交流局 観光国際部 観光課
管理班 担当：南方・松林・村越

TEL: 073-435-1234 FAX: 073-435-1263

MAIL: kanko@city.wakayama.lg.jp

注意

加太港までのアクセス



≫お車で

- 阪和自動車道 泉南 I C から加太まで ⇒約 26 km 約 45 分
- 阪神高速 4 号湾岸線 泉佐野南 I C から加太まで ⇒約 33 km 約 60 分
- 阪和自動車道 和歌山北 I C から加太まで ⇒約 17 km 約 40 分

≫電車で

- 南海電鉄なんば駅より和歌山市駅下車。加太線乗り換え、終点加太駅下車。
- J R 阪和線で J R 和歌山駅下車。紀勢本線乗り換え和歌山市駅へ。南海加太線乗り換え、終点加太駅下車。